

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 12 月 7 日 (2006.12.7)

【公開番号】特開 2005-256942 (P2005-256942A)
 【公開日】平成 17 年 9 月 22 日 (2005.9.22)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-037
 【出願番号】特願 2004-68863 (P2004-68863)
 【国際特許分類】

F 1 6 H 15/38 (2006.01)

F 1 6 C 19/26 (2006.01)

F 1 6 C 33/58 (2006.01)

F 1 6 C 35/077 (2006.01)

【F I】

F 1 6 H 15/38

F 1 6 C 19/26

F 1 6 C 33/58

F 1 6 C 35/077

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 10 月 24 日 (2006.10.24)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 1】

傾転軸受 1 5 0 の外輪 1 5 0 a の外面とヨーク 2 3 の保持穴 2 3 a との接触面が摩耗すると、それに伴って生じる摩耗粉がパワーローラ 6 やディスク 2 , 4 のトラクション面をはじめとする各軸受の軌道面に圧痕を形成する。これは、パワーローラ 6 やディスク 2 , 4 の寿命低下を引き起こす原因となるだけでなく、トラニオン 6 とヨーク 2 3 との間のガタを大きくして、トラニオン 6 の保持性を低下させ、傾転同期不良等の不具合を生じさせる可能性がある。また、傾転軸受 1 5 0 の外輪 1 5 0 a の外面とヨーク 2 3 の保持穴 2 3 a との間には、通常、ケース 2 0 0 の内側で飛散した油が自然に侵入する程度の量でしか供給されない。この程度の潤滑油量では、摩耗を効果的に抑制することはできない。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 2】

そのため、従来にあっては、例えば、ヨーク 2 3 の保持穴 2 3 a に傾転ストッパを形成したり、傾転軸受 1 5 0 の外輪 1 5 0 a とヨークとをピンで支持するなどして、ヨーク 2 3 と傾転軸受 1 5 0 との相対的な回転を規制し、結果的に、摩耗の低減を図っている（例えば、特許文献 1 参照）。